

学級づくり 基本編「クラスの仲間との協力体制」

情意支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

笑顔、安心に包まれた学級づくりこそ、支援の土台となります

○学級担任の先生が全てを担うのではなく、
児童生徒たちが助け合い、豊かな人間関係を作るチャンスと捉え、
適切な場面で支援をお願いする機会を作る。

(もちろん、先生は陰で様子を見守りながら)

○クラスの中に「**困った子がいれば助け合う**」との文化が育っていれば、児童生徒は、生活や学習等、様々な場面で自然と助け合うことができる。
 日本語で困っている友達に対しても同様。

○お互いの「伝えたい」「分かりたい」との思いから、
どのような言葉につまずいているのか、どのような言葉や表現ならうまく伝わるのか、を考えることができる。

ああ、Aさんは、「あまり」という言葉が分からないんだな。



「あまり」という言葉、どうやたらうまく伝わるかな。

例：小学校3年生算数「あまりのある割り算」の学習場面にて

あるエピソード。初めて日本の学校にやってきたAさん(小2)への、校内の様々な教室や施設の紹介を、クラスの児童たちをお願いしてみました。児童たちは喜んで引き受けてくれました。

休み時間、Aさんを案内しながら、ジェスチャーや掲示物等を使いながら、どうやたら伝わるかを考え、一生懸命に説明している児童たちの姿が見られました。

Aさんもとてもうれしそうな顔をしていました。



※本ポータルサイトコンテンツ「[学校生活支援Q&A](#)」においても、学級づくりの取組やエピソードが掲載されています。

学級づくり 基本編「学習形態の工夫」

情意支援

表現支援

理解支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

○授業のねらいや児童生徒の実態に応じた学習形態（ペア学習、グループ学習、一斉学習等）を工夫。

自力解決が難しい
表現することが難しい
考えが広がらない



みんなの前（一斉学習）だと質問しにくいな…
自分の考えをどうやって伝えればよいのかな…
友達の考えをゆっくり分かりやすく聞きたいな…

学習形態
の工夫



→安心して質問できた！
→伝え方が分かった！
→友達の考えがよく分かった！

ペアの相手、
グルーピングや
人数、座席位置
等にも配慮

解決へのヒントを得る
表現のヒントを得る
考えが広がる



○1人1台端末を活用
○思考ツール（チャートシート）等を活用



※話合いの前に、自分の考えや分からないところを整理する時間を十分に確保しましょう。
※話合いのルールを決めておきましょう。

学級づくり 基本編「座席配置の工夫」

情意支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

児童生徒の実態や特性に応じた座席配置を考えて工夫。

- 教師の支援が行き届きやすい座席配置
- お手本となり面倒見のよい児童生徒の近くに座席配置
(ただし、その児童生徒の負担にならないよう配慮)
- 人間関係等を踏まえた座席配置 等

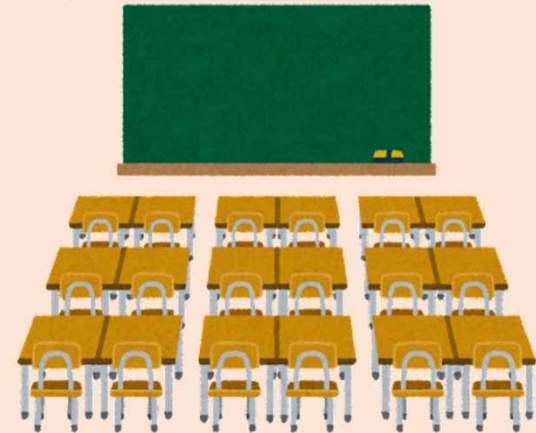
入り込み指導をされている先生のお話です。

児童生徒の実態や特性は実に様々です。できるだけすぐ隣で支援してもらう方が安心する子もいれば、中には周囲の目を気にする子もいます。

そんな子への配慮として、先生はT. T. のような立場で教室全体の子供を支援しつつも、その子に目を配り、ヘルプのサインがあればいつでも支援できるようにしているそうです。

また、友達との学び合いの場面を優先し、友達への質問の仕方や、考えや思いの伝え方が分からないときに支援するなど、子供の自律に向けた支援を心掛けているそうです。

座席配置についても、子供が安心して意欲を持って学べる環境を考えて工夫してみましょう。



学級づくり 基本編「教室掲示物等の工夫」

情意支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

○児童生徒が日本語がわからずに困っているときや、周囲の児童生徒が助けたいときは、**すぐに指し示すことのできる教室掲示物**を活用。



【あると助かる掲示物】

※ひらがなやローマ字等、読める文字で

- ・友達の写真&名前
- ・各教室の写真&名前
(図書室、音楽室、体育館等)
- ・学用品の写真(イラスト)&名前 等

○日本語がわからない児童生徒が、自分の今の気持ちや状況を安心して伝えられるような絵カード等を活用。

※きもち&じょうきょうカードは、本コンテンツ目次に☆すぐに役立つ資料☆として掲載しています。

きもち&じょうきょうカード



どうしたの？

先生、あのね…